

バカロレア改革の現状と課題

阿部和久，倉元直樹（東北大学）

本稿は、主に公にされた資料から、フランスのバカロレア改革、リセ改革、高等教育進学制度改革の3つの改革の現状を把握し、その背景を探ろうとするものである。一連の改革の中心となるバカロレア改革は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、これまで幾度となく修整を余儀なくされてきた。しかし改革の公表から4年が過ぎ、理念の実現過程を通して全容がほぼ明らかになってきたのも事実である。既に新たな課題が生じていることもあり、現状を確認し、日本の大学入試制度を考えるための視点の一つを得たい。

1. 問題と目的

フランスのバカロレア改革は2018年2月14日、国民教育・青少年・スポーツ省（以下「国民教育省」と表記する）のミシェル・ブランケール大臣が、閣議の後、その概要を公表した。最大の変更点は、従来リセ最終学年の6月、約1週間に渡って実施されてきたバカロレア最終試験の科目を大幅に削減し、代わりに継続的評価（内申点。以下、「内申点」と表記する）を導入したことである。最終成績における評価の割合は試験60%、内申点40%。そして新たな試みとして最終口頭試問 Grand Oral を課すことになった。

試験の比重を軽くし、口頭試問（面接）や内申点を活用して高校での学びを評価する、という改革の方向性は、我が国の大学入試政策とも相通ずるものがあると感じられる。しかしながら、改革の背景や具体的な課題、さらには、大学入学者選抜制度の根底にある教育観まで、同一視してよいものだろうか。

本稿はフランスで進められているバカロレア改革とその背景、さらには新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」と表記する）への対応を示し、我が国の高大接続改革への示唆を探る。

2. 先行研究

フランスの高大接続改革の日本の大学入試制度への示唆は、主にフランス教育学者たちによって指摘されてきた。例えば、細尾（2018）は、次の5つの論点を提示した。1) 誰が大学入試の作問をするか。2) 論述試験の評価の信頼性をいかに確保するか。3) 高大間で何が接続していて、何が接続していないのか。4) 受験準備抑制のために、大学入試に内申点を導入すべきか。5) 内申点評価の方が、匿名の外部試験より公正か¹⁾。また、夏目（2018）は「高大接続の活動は、留年・中退防止の観点から大学教育改革の必要性に関する大学関係者の意識向上に一定の効果をもたらしている」と大学に入学した後の教育との関連に触れた²⁾。

3. 方法

国民教育省、フランス高等教育・研究・イノベーション省（以下「高等教育省」と表記する）の公式資料を中心に、両省の大臣、大統領、首相の記者会見時における発言や新聞報道、ニュース映像等から得られる情報に基づき、バカロレア改革の詳細を明らかにする。

4. 改革の背景

4.1. バカロレアの定義

バカロレア試験とは、後期中等教育の修了認定資格であると同時に大学入学や各種国家試験の出願が認められる資格であるバカロレアを付与する試験である。

4.2. 取得率と合格率

フランスの大学は選抜試験を実施しない。バカロレアを取得すれば、原則としてフランスのどこの大学にでも入学できる。しかし、バカロレアの「大衆化」³⁾がそれを困難にした。人気大学の人気学部に入学者希望者が殺到すれば、大学は物理的に収容できない。

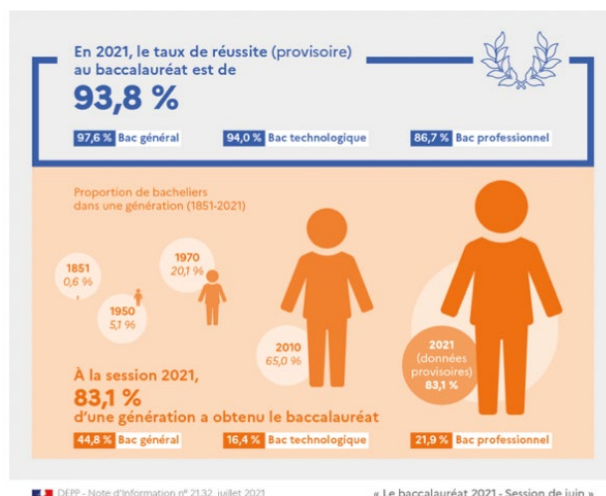


図1 バカロレア2021年の結果速報⁴⁾

図1は2021年7月に国民教育省が公表した速報⁴⁾である。年号の書いてある円の中を並べると、1851年：0.6%、1950年：5.1%、1970年：20.1%、2010年：65.0%、2021年：83.1%、となる。これはバカロレア取得者がフランスの同年齢層 une génération の中でどのくらいの割合を占めるかを示している。

50年前には同じ世代のバカロレア保持者は5人に1人くらいしかいなかったのが、2021年には5人のうち4人になっている。人数で言うとセッション(試験期)2021の受験者は732,843人で、最終的には687,243人が合格した⁵⁾。一方、日本では、2021年1月の大学入学共通テストの受験者は484,114人である⁶⁾。つまりバカロレアのセッション2021は日本の約1.5倍の規模で実施されたことになる。

次に合格率を見る。伝統的に20点満点で、総合平均10点以上になれば合格となる。図1によれば2021年の合格率は93.8%と極めて高い。普通バカロレアに至っては97.6%とほぼ全入である。技術バカロレアは94.0%、職業バカロレアは86.7%。これでは「後期中等教育の修了認定資格」試験としてはともかく、「大学入学や各種国家試験の出願が認められる資格」試験として機能したかは疑わしい。

表1 合格率・取得率(確定値)の推移

	合格率 (%)	同世代における取得率 (%)
2017年	87.9	79.1
2018年	88.2	79.9
2019年	88.0	80.0
2020年	95.0	87.0
2021年	93.7	82.8

(注) 国民教育省のHP⁷⁾から筆者が作成

2020年はCOVID-19の影響を受け、内申点のみに基づいて合格者を出した。2021年は哲学の試験と最終口頭試問 Grand Oral の2科目を実施しただけで、それに内申点82%を加えて合格者を出した。この両年の数字が飛び抜けて高い。同じことが大学でも起こっている。2019年9月に大学に入学した学生の2年への進級の割合が例年に増して高くなっていった⁸⁾。

4.3. 学位取得率と退学率

バカロレア改革を公表した2018年2月の記者会見で、ミシェル・ブランケール国民教育相は「バカロレア試験の合格率は90%だが、学士号レベルの不合格率

率は60%で、バカロレアはもはや高等教育での成功の真の予測因子とは言えない」と述べた⁹⁾。自他共に認めるバカロレアの機能不全である。

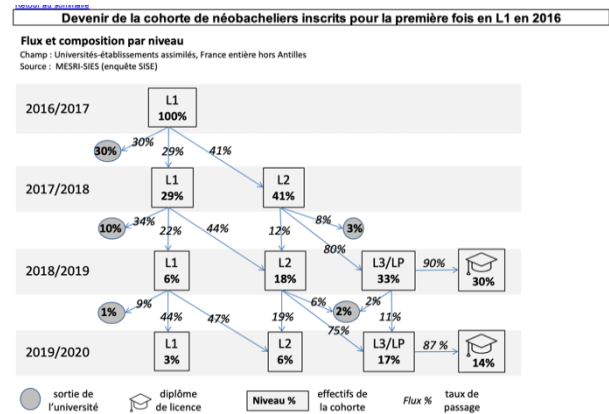


図2 2016年に大学1年に初めて登録したバカロレア世代の転変¹⁰⁾(抜粋)

図2は国民教育省が2021年11月に公表した資料の一部である。主に2016年7月にバカロレアを取得し、同年9月に大学に入学した学生が3年後あるいは4年後にどうなったかを示す。進級を見るには右斜め下に矢印をたどっていけばいい。2年に上がったのが41%、3年に上がったのが33%、卒業にこぎつけたのが30%。つまり2016年9月に大学に入学した学生のうち、規定の修業年限3年で学位を取得したのは30%しかいないのである。翌2020年6月に取得した14%を足しても44%で、半分に満たない。

ちなみに2018年の大臣記者会見時に手に持っていたと思われるのは2012年入学生のデータである。その年の学生は、3年で卒業したのが27.5%、4年で卒業したのが11.7%。大臣の言葉通り、3年又は4年で学位を取得できなかった学生は60.8%に上った¹¹⁾。

ただ学位取得者の割合よりもっと目を引くのは、退学者の割合である。網掛けの部分拾っていくと1年目が30%、2年目が13%、3年目が3%、合計46%の学生が道半ばにして大学を離れている。

フランスの大学の多くを占める国立大学は授業料が無料である。年間登録料170ユーロ(仮に1ユーロ130円とすれば22,100円)払えば1年間在籍できる¹²⁾。日本や米国と比較すれば金銭的な負担は非常に軽い。しかし学士号取得率の低さ、退学率の高さは、金銭的な問題よりも、リセの中に潜む構造的な問題が原因であることが、以前から指摘されてきた。バカロレア改革がリセ改革と一体的に進められることになった理由がここにある。

4.4. リセ改革

リセは日本の高等学校に相当する。単にリセと言った場合は普通リセと技術リセを指し、さらに職業リセがある。普通リセと技術リセの1年次は共通の教育課程で学び、2年次から普通課程と技術課程に分かれる。修業年限は普通リセと技術リセは3年。職業リセは、職業適正証明書 CAP を取得して就職を目指す場合は2年、バカロレア取得を目指す場合は3年である。

普通リセには、以前、文学系、経済社会系、科学系の3系列が置かれていたが、今は無い。

技術リセの8系列は今も残っている。工業・持続可能な発展系、デザイン・応用芸術系、実験科学系、健康・福祉系、マネジメント・経営系、農学・生物系、ホテル業・外食産業系、演劇・音楽・舞踊系である。

職業リセには美容・調理などおよそ100の専攻があり、やはり2年から分かれる。

普通リセの3つの系が廃止された理由は、いわば「序列化」の弊害である。日本人は文学系、経済社会系、科学系と聞くと、高校の文系と理系の在り方を想像するだろう。自分の好きな教科や将来進みたい方向などを考えて文系・理系を選ぶ。しかしフランスの実態は違っていた。自分の志望、嗜好などに関わりなく、ただ学力の高さによって科学系>経済社会系>文学系を選んでいたのである。系に存在するヒエラルキー。

事実、普通リセは52%を科学系が占めているが、「科学系バカロレア取得者の40%が(大学で)科学を勉強したくない」¹³⁾という状況が生じていた。これらの学生たちが進学して不適応を起し、学位の早期取得率を下げ、退学率を押し上げた一因となる。

次に、エリートを養成するグランゼコールの準備学級CPGEの場合を見る。2020年9月に入学した学生のうち普通リセ出身者は41,193人。系別に見ると、科学系25,440人(61.9%)、経済社会系9,744人、文学系6,309人。難関として知られるCPGEでは、普通リセ出身者の5人に3人は科学系だった¹⁴⁾。

バカロレア改革が公表された2018年のリセ入学生が2年になった時、普通課程の系列は廃止された。そしてどのクラスからでも、2年次に専門科目を3科目、3年次に2科目を選択できるようになった。実は専門科目を戦略的に選択できるかどうか、それが志望する高等教育機関に進学するための重要な鍵になる。

4.5. 出身リセ別による成功率

しかし普通リセの系別による差異は「コップの中の嵐」にすぎない。コップの外ではもっと深刻な事態が起こっていた。普通リセ、技術リセ、職業リセという

出身リセ別の「成功率」の差こそが問題だった。

表2 2016年9月に大学1年に登録し3年又は4年で学士号を得たバカロレア取得者の属性別割合(%)¹⁵⁾

属性	登録割合	3年で取得	3年又は4年で
男	41.2	22.8	36.3
女	58.8	34.3	48.7
バカロレアの系			
文学	19.4	32.3	47.2
経済	29.7	36.2	53.3
科学	29.4	38.5	54.5
普通バカロレアの合計	78.4	36.1	52.3
マネジメント・経営系	7.5	6.0	13.4
他の技術バカロレア	6.5	9.8	18.5
技術バカロレアの合計	14.0	7.7	15.7
職業バカロレアの合計	7.6	2.3	5.0
獲得した評価			
秀	5.8	69.1	78.1
優	13.9	55.9	69.7
良	27.7	36.0	52.5
第1グループ	36.3	16.9	31.4
第2グループ	13.5	7.9	18.5
不明	2.7	22.1	32.1
社会的背景			
非常に恵まれている	28.3	37.0	52.0
恵まれている	13.9	32.8	47.4
それほど恵まれていない	27.0	28.8	42.9
恵まれていない	26.1	22.5	35.3
解答なし	4.6	18.7	31.0
合計	100	29.6	43.6

Source : MESRI-SIES, système d'information SISE

3年又は4年で学位を得たのは、普通バカロレア取得者では2人に1人、技術バカロレアでは6人に1人、職業バカロレアにいたっては20人に1人しかいない。もちろん大学進学を目指すのであれば普通リセに行くのが一般的なので、高校を選んだ(フランスには高校受験が無いのでその高校に「振り分けられた」)時点から既に不利な状況にあったことは事実である。それにしても差が大きい。そしてフランス特有の事情が厳しさに拍車をかける。

4.6. 高等教育機関の概要

文部科学省の資料¹⁶⁾により2017年度の主な高等教育機関と修業年限、校数、在籍数を確認する。

- 大学：3年，105校（国立68校，私立37校），国立1,495,222人
(私立大学の学生数はグランゼコールに含まれる)
- 大学附設の技術短期大学部（IUT）：2年，国立112校，119,661人
- グランゼコール（GE）：3～5年，国私1,013校，542,900人

- ・ リセ附設グランゼコール準備級 (CPGE) : 2年, 453校 (国 360校, 私 93校), 85,121人 (国 71,388人, 私 13,733人)
(グランゼコールの1部は大学に附設されており, その学生数は国立大学の学生数を含む)
- ・ リセ附設中級技術者養成課程 (STS) : 2年, 2,476校 (公 1,534校, 私 942校), 262,626人 (公 178,902人, 私 83,724人)
- ・ 高等教員養成学院 : 2年, 国 30校 (大学を含む)
- ・ 各種専門学校 : 不記載, 国私 848校, 182,500人

これらの高等教育機関の中で、グランゼコールに進学してエリートを目指す CPGE を別にすれば、IUT や STS は本来、技術リセや職業リセの生徒の主な進学先となるべき機関である。どちらも小規模のため、学生の面倒見がよく、選抜試験を通過しているので一定の学力もあって就職率も高い。

そこで、普通バカロレアの取得者たちが大学を避けてこちらの受験に回るといった現象が起こった。普通リセの生徒は元々学力があり、技術リセや職業リセの生徒が実習している間に勉強しているため成績が良い。そのため技術リセや職業リセの生徒を押しつけて入学試験に合格してしまう。しかたなく技術リセと職業リセの生徒たちは大学に行く。入学試験がないからだ。そこで不適応を起こすのは必然だった。

5. 高大接続改革

5.1. バカロレア改革

バカロレア改革の具体策の一つは受験科目の削減である。従来、約1週間に渡って10~12科目の試験が行われていたが、3月に専門科目2科目、6月に哲学と最終口頭試問 Grand Oral 2科目の計4科目に削減された。2年次の6月に行われるフランス語の筆記試験・口頭試問と合わせても5科目、ほぼ半減である。

これによって負担が減ったのは生徒だけではない。リセの6月はバカロレアによって麻痺するとさえ言われてきた。採点等の作業が膨大で、各リセは通常の学業活動が続けることが困難だった。時間的にも経済的にもコスト削減という意味合いは大きい¹⁷⁾。

5.2. 専門科目の試験

セッション 2022 では、自ら選択した専門科目2科目の試験が3月14~16日から5月11~13日に延期された。したがって本稿執筆時点でその具体的内容を記すことができない。従来の記述式の試験が継続されると思われるが、後日検証する。

5.3. 最終口頭試問 Grand Oral

普通バカロレアと技術バカロレアに新科目として導入されたのが最終口頭試問 Grand Oral である。日本の大学入試で一般的に行われている面接試験や口頭試問とはやり方が異なるので詳述する。

最終口頭試問 Grand Oral は「準備時間 20 分+口頭試問 20 分」の計 40 分で行われる。口頭試問 20 分は「5分/10分/5分」の3部に分かれる。審査員は2名。受験生が属するリセ以外の教員が当たる。

口頭試問が始まる前に、受験生はあらかじめ準備してきた2つの課題 question を審査員に示す。この課題は3年で選択した (通常は3か月前に受験を終えた) 2つの専門科目に関わる課題である。例えば「世界平和を構築する要素は何か」「放射能に汚染された土地で育てられた食物は、いつから食用が可能か」¹⁸⁾。

審査員は2つのうちどちらか1つの課題を選ぶ。受験生は別室で 20 分間、選ばれた課題に対するプレゼンテーションの準備をする。その間受験生は自分の発表のポイントや、地図、グラフ、図などを書いた資料 support を作ることができる。support は発表に使ってもよいし、発表を始める前に審査員に渡してもよい。support 自体は評価の対象に含まれない。

第1部 (5分) : 発表の時間。受験生は、なぜその課題を設定したのか説明し、その解決策について自分の考えを審査員に示す。

第2部 (10分) : 質疑応答の時間。審査員は、より詳細な質問を行って受験生の考えをふくらませる。課題と関連させながら、受験生がリセで学んだことについて聞くこともある。受験生の知識と論証力が評価される。

第3部 (5分) : 受験生が将来の計画について審査員と意見交換する時間。受験生は、自分の設定した課題が、バカロレアを取得した後、どんな学びの追究につながっていくか、将来どんな仕事に結びつけたいと考えているか説明する。

1) あらかじめ課題を作って面接に臨む、2) 面接の前に課題を審査員に提出する、3) 2つの課題のうち1つが選ばれる、4) 受験生に準備する時間が与えられる、5) 面接の直前に作った手書きの資料を審査員に提示する、6) 面接時間が3部に区切られ、それぞれの役割が決まっている、7) 必ず自分の将来の学習計画 (大学等でどんな学びをしたいか)、キャリアプラン (将来どんな仕事につきたいか) と今回提示した課題との関連について触れなければならない。以上7点が特徴的で

ある。最後の5分の設定には、何とかして大学の留年やドロップアウトを減らしたいというフランス政府の意向がよく反映されている。

5.4. 高等教育進学制度改革

次にバカロレア改革に先行して進められた高等教育進学制度改革について触れる。年々増加するバカロレア取得者の収容適正化を図るため、2009年にAPB (Admission Post Bac, バカロレア取得後事前登録) という制度が導入された。特別に開発されたコンピューターソフトを活用し、バカロレアを受験するリセの最終学年の生徒たちなどを各高等教育機関に割り振るシステムである。しかしこれが様々な批判を受け2017年で廃止された。定員を超えた場合は抽選で入学者を選ぶ、日本では想像しにくいシステムだった。

後継のプラットフォームはパルクールシュップ Parcoursup と呼ばれる。2018年1月15日、フィリップ首相(当時)がパリのリセに赴きヴィダル高等教育相とブランケール国民教育相を従え公表した。翌日の新聞等には「偽装選抜」"sélection déguisée" など批判的内容の記事が多く見られた^{19),20)}。

パルクールシュップでは、各「学部」formationは受験生に「募集要件」attenduを示し、定員を超えた場合は内申点やバカロレアの成績などによって出願書類を「審査」examinerする。加えて注目に値するのが日本の「推薦書」に近いfiche Avenir (ficheはカルテ, avenirは将来)の存在である²¹⁾。fiche Avenirは受験生を介さず、リセから各学部等へデジタルで直送される。受験生はParcoursup上で志願先を1人10学部まで登録できるが、志望動機もしかり、特記事項もしかり、合格不合格の知らせなども各自のメールアドレスに送られて来るので、約70万人の進学先選びはネット上で完結し、紙が使われることはない。

6. 課題

内申点の妥当性については導入検討時からの問題なのでここでは触れない。バカロレア改革の実現を通して具体的に明らかになったことに絞る。

象徴的な課題の1つは数学を選択する女子生徒が減少したことである。表3(原資料²²⁾では表の右に社会的背景との関連を示すデータがあるがここでは省いた)によれば、2年次に選択した3つの専門科目から3年次の2科目に絞る時、数学の履修をやめた生徒の63.0%が女子である。さらに2年次も3年次も数学を履修していない生徒の69.4%が女子である。数学関係者が懸念していたことが現実になってしまった²³⁾。

表3 2年次の選択科目(3科目)と3年次の選択科目(2科目)における数学の有無

3科目	2科目	生徒数	割合	女子の割合
数学○	数学○	151,194	41.2%	42.0%
数学○	数学×	102,030	27.8%	63.0%
数学×	数学○			
数学×	数学×	113,608	31.0%	69.4%
合計		366,832	100.0%	56.3%

(注) 国民教育省HPから項目等を筆者が訳

第二に生徒の意欲の問題である。2022年3月14~16日に予定されていた専門科目の試験が5月11~13日に延期された時、「パルクールシュップに反映できなくなって残念だ」という声があった。実はパルクールシュップでは、4月と5月は各高等教育機関が受験生から受け取った出願書類を審査する時期であり、受験生の出願書類の提出は終わっている。

表4 バカロレア2022とパルクールシュップ2022

日程	種別	内容
3/30~4/7	パルクールシュップ	出願
5/11~13	延期バカロレア	専門科目2科目の試験
6/2~7/15	パルクールシュップ	出願先から合否が来る
6/15	最終バカロレア	哲学の試験
6/20~7/1	最終バカロレア	口頭試問 Grand Oral

(注) 国民教育省HP²⁴⁾から筆者が作成

当然6月の最終試験2科目は、パルクールシュップに反映されない。それどころか、早い人は最終試験の前に進学先が決定している。果たしてその状態で本気になって哲学の筆記試験と最終口頭試問 Grand Oralに臨めるものなのか。フランスの日程の組み方は日本の入試制度に慣れ親しんだ筆者の理解を超えている。

さらに、COVID-19の災禍に見舞われたセッション2020, 2021では、それまでの改革の議論を飛び越えて、例年とは全く異なる基準でバカロレアの認定が行われた。感染状況の深刻さに差があったとはいえ、可能な限り、例年通りの入学者選抜を行おうと努力したわが国とは対照的である²⁵⁾。

フランスのバカロレア改革及び高等教育進学制度改革は、若者を遅滞なくさばくことに重点を置く余り、育てる視点が疎かになっていないかという不安が残る。

謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP21H04409 の助成による研究成果の一環である。

注

- 1) 細尾萌子(2018:18) 「フランスの高大接続からのヒント-思考力・表現力と内申点の評価-」
- 2) 夏目達也(2018:89) 「フランスの大学における高大接続の取組と教育改革」
- 3) 園山大祐 (2017 : 36) 「フランスにおける中等教育の大衆化と女子の進路選択-進路決定過程にみる自己選抜・自己排除-」
- 4) Note d'information n° 21.32 juillet 2021 (Ministère de l'éducation nationale, de la jeunesse et des sports のHP(以下 MEN で示す), 2021.7) 2022 年 3 月 22 日最終閲覧(以下※で示す)
- 5) 同上
- 6) 大学入試センターHP(n.d.) 「令和3年度共通テスト 志願者数・受験者数等の推移」※
- 7) “Résultats définitifs de la session 2017 ~ 2021 du baccalauréat”(MEN,n.d.) ※
- 8) NOTE FLASH DU SiES (MEN,2021,11) “Réussite en 1ère année de licence”中のコラムから訳出する。「学士課程1年の成功 セッション 2020 では, 新型コロナ蔓延を背景に大学の学士課程1年目から2年目への合格実績が例年より高くなった。事実 2019 年度が始まる時, 2 年目への合格率は53.5%で, これは2018 年度より8ポイント, 2017 年度より10ポイント近く高くなっている。逆に留年率は20.6%と, 1年間で6.4ポイントも低下した。」※
- 9) Communication en conseil des ministres : la réforme du baccalauréat(MEN,2020.6) ※
- 10) nf-sies-2021-24 tableaux-nationaux-15124 (2021.11) ※
- 11) Devenir de la cohort de néobacheliers inscrits pour première fois en L1 en 2012 (Ministère de l'enseignements supérieur, de la recherche et de l'innovation, 2018.11) ※
- 12) LE COÛT DES ÉTUDES SUPÉRIEURES EN FRANCE (MEN, n,d) ※
- 13) Baccalauréat 2021:un tremplin pour la réussite(MEN, n,d.:4) ※
- 14) SIES-MESRI,RERS 2021 “Origine scolaire des étudiants. nouveaux entrants en CPGE en 2020-2021, (en %)” (MEN, n,d.) ※
- 15) nf-s-es-2021-24-tableaux-russite-en licence-15127, “Réussite à la licence en trois ou quatre ans des bacheliers 2016 inscrits en L1 à la rentrée 2016, selon leurs caractéristiques (en %)” (MEN, n,d.) ※
項目等を筆者が訳出
- 16) 文部科学省「諸外国の教育統計」令和3(2021)年版 3.1.2.4.フランス (n.d.) 文部科学省 HP※
- 17) 12)と同じ資料 12p 「複雑すぎる試験を簡素化するために」に「2,900 種の問題を準備」「400 万枚の答案の採点」「1, 2年生の授業が被害」などの文字が見える。※
- 18) Le Grand Oral:ce qui vous attend-YouTube, (MEN, 2021.9) ※。アニメの受験生が審査員に出す support には”aliments irradiés (放射線を浴びた食物)”と “construction de la paix (平和の構築)”という文字が書かれている。審査員は前者を選ぶ。
- 19) Le Point のHP の記事(2018.1.15)の一部を訳出する。※ 「バカロレア取得後の学業のための新しい登録プラットフォームであるパルクールシュップが, 月曜日, 政府によって発表された。大学における『偽装選抜』の懸念は完全には払拭されず, 多くの若者を見殺しにすることになりかねない。」
- 20) BFM.TV のHP の記事(2018.1.15)の一部を訳出する。※ 「前の国民教育相ブノワ・アモンは『入学時の選抜が前提条件。この新制度は, 職業リセ, 技術リセの生徒を落胆させ, 大学の門を閉ざすものだ』と断じた。
- 21) Le Parisien のHP の記事(2018.5.23)の一部を訳出する。※ 「ある生徒たちにとって fiche Avenirこそが真のバカロレアである。来年の進学を確実にするために必要なのは, あなたの頑張りに対する先生からの評価である」。
- 22) Note d'information “La présence de mathématiques dans les triplettes et les doublettes, en fonction du sexe et de l'origine sociale des élèves.” (MEN, 2021.5) ※
- 23) ”Remise du rapport sur la place des mathématiques dans la voie générale au lycée”(MEN, 2022.3.21) ※ によれば, 普通リセの数学指導に関する協議会は, 普通課程に在籍するすべての生徒が, その後の進路がどうであれ, 必要となる基本的な数学的概念を習得することができるよう, 数学の時間増などを要望した。
- 24) ”Baccalauréat 2022 : aménagements des épreuves compte tenu de la situation sanitaire” 及び”Le calendrier Parcoursup 2022 en trois étapes”(共に MEN, 2022.3) ※
- 25) 倉元直樹, 宮本友弘, 久保沙織 「コロナ禍の下での大学入試を振り返る -主として2021(令和3)年度入試に関連して-」 「東北大学高度教養開発・学生支援機構紀要 第8号」 (2022)